

令和2年度一般選抜（後期）総合問題A

【出題の意図】

アドミッションポリシーに基づき、志願者の能力・志向性・適性を多角的に評価することを目的として出題した。

本学で学ぶために必要な基礎学力が備わっていることを前提として、いまを生きる「若者」について書かれたふたつの課題文を掲出した。課題文の内容を、限られた時間内での確に読み取る力（読解力）、問われていることを的確に捉える力（理解力）、筋道立てて考える力（論理的思考力）、考えや主張をまとめ、自分の言葉で的確に表現する力（文章構成力）などを見ることを意図して問いを設定した。

問1

○解答例

経済の成長に下支えされていた時代を生きた上の世代は、いい大学に進学するために受験勉強をする、いい会社に就職するために就職活動をするなど、10年後20年後を見据えて努力していたが、不安定な社会に生きるいまの若者たちは、より近い将来に向けて身近な目標を立て、それに向かって努力している。

*採点のポイント

- ・筆者の言う「若者」と「上の世代」の努力の違いを対比して説明している。
上の世代—遠い将来を見据えて、その実現に向かうための努力
若者—より近い、すぐそこにある将来に向けて、身近な目標を立て、その実現のための努力
- ・二つの世代の違いが、安定性のある社会とそれを欠く社会への対応であることに言及している。

問2

- ・現在の日本社会のように、成長期の段階を終えて成熟期に移行している時代
- ・現在のように、すでに成長期の段階を終えて成熟期に移行し、社会全体が平坦化した時代 など

*採点のポイント

関連する表現、類似表現が手があり。課題文②〈A〉の最終段落に〈現在の日本社会〉への言及がある。この段落の表現を用いて説明している。

問3

○解答例 省略

*採点のポイント

- ・筆者の考えを的確に読み取り、キーワードを用いながら説明している。
- ・「劣悪な環境」に言及している。
- ・「錯覚」「宿命」などの語を用いていなくても、内容を的確に説明している。
「世代の相違」や「努力」の違いに焦点を当てて解答してもよい。
- ・設問の意図を正しく読み取り、「理由」を示す文を用いて客観的に記述している。「述べている」「記している」「筆者は考えている」などの形で結ばれていてもよい。
- ・自分の考えを述べていない。

問4

○解答例 省略

*採点のポイント

- ・全体的な傾向として、右肩上がり推移していることを読み取っている。
- ・課題文①の内容を踏まえている。
努力が実を結ぶかどうかに関わらず「遠い将来をイメージして行動する若者より近くて具体的な未来を意識して行動する若者の方が多い」など。
- ・課題文②の内容を踏まえている。
「努力」についての考え方の違い、現在の若者の「努力」の捉え方など。
- ・「上昇する」「ほぼ横ばい」「下降する」、いずれの立場であってもよいが、立場を明示したうえで、自分の考えを論理的に展開している。